

修士論文（要旨）
2015年1月

アフリカ諸国における HIV 検査施設の改善
- 建築学的視点からのプライバシー重視アプローチ -

指導 鷹木 恵子 教授

国際学研究科
国際協力専攻
212J1053
市川 達也

目 次

第1章 序論	1
1.1 問題の所在と本論文の目的	1
1.2 先行研究と本論文の位置づけ	3
1.3 研究調査方法とプライバシー重視アプローチ	5
1.4 本論文の構成	6
第2章 HIV/エイズ問題を取り巻く世界の状況	7
2.1 HIV/エイズ問題の現状	7
2.1.1 HIV/エイズの定義	7
2.1.2 HIV/エイズ感染の動向	7
2.1.3 HIV/エイズ問題の課題と対策	9
2.2 国際機関による HIV/エイズ問題への支援	10
2.2.1 国際的支援の動向	10
2.2.2 支援への目標指針と達成状況	11
2.3 日本における HIV/エイズ問題への支援	12
2.3.1 日本政府による支援	12
2.3.2 JICA による支援	14
2.3.3 NGO による支援	15
第3章 アフリカ諸国における HIV 検査施設とプライバシー重視アプローチ	17
3.1 HIV/エイズ対策における HIV 検査施設	17
3.1.1 HIV/エイズ検査の重要性	17
3.1.2 HIV 検査施設の定義	17
3.1.3 HIV 検査施設の役割と課題	18
3.2 アフリカ 4 カ国における HIV 検査施設の現地調査事例	20
3.2.1 現地調査の背景と目的	20
3.2.2 現地調査の概要	21
3.2.3 各国 HIV 検査施設の概況	22
3.2.3.1 ケニアの概況	23
3.2.3.2 ガーナの概況	25
3.2.3.3 セネガルの概況	28
3.2.3.4 マラウイの概況	31
3.3 プライバシー重視アプローチ	34
3.3.1 調査の位置づけ	34
3.3.2 調査結果による現状と課題	37
3.3.3 現状と課題からのプライバシー重視アプローチ	41

第4章 プライバシー重視アプローチによる「施設改善」への提言	4 2
4.1 プライバシー重視アプローチの意義	4 2
4.1.1 プライバシーについて	4 2
4.1.2 医療機関におけるプライバシーの扱い	4 3
4.1.3 HIV 検査施設におけるプライバシーの扱い	4 6
4.2 プライバシー重視アプローチによる「施設改善」	4 7
4.2.1 外部環境と内部環境	4 7
4.2.2 環境設定にかかる改善項目	4 8
4.2.3 改善項目の概要	4 9
4.3 改善事例と提言	5 3
4.3.1 改善事例	5 3
4.3.2 改善事例からの提言	6 5
4.4 提言のモニタリング・検証	6 9
4.4.1 モニタリング・検証方法	6 9
4.4.2 レビューの内容	6 9
4.4.3 レビューの結果	7 3
第5章 まとめと今後の課題	7 5
参考文献	7 9

付録 1

修士論文 要旨

エイズ患者が世界で初めて報告されたのは、1981年、アメリカにおいてであった。

これを機に、エイズという病気は、HIV というウィルスが原因で感染し、その後、発症するということが特定された。その後現在まで、感染者の数は急増の一途をたどってきている。

とりわけ、サハラ以南のアフリカがもっとも深刻な影響を受けており、同地域の HIV 感染者数は世界全体の約 70% を占めている。一方、エイズ対策への取り組みも、1996 年に発足した国際連合同エイズ計画 (UNAIDS) を中心に包括的な対策が進んできている。

とくに深刻な状況が続くサハラ以南アフリカでは、HIV 抗体検査を行う施設を増やして、予防啓発活動により HIV 検査を推進してきた。それに伴い、同施設とは別に、自発的な HIV 検査と事前・事後のカウンセリングをセットにして行うことに特化した、「VCT」 (Voluntary Counseling and Testing: 自発的カウンセリングおよび検査) センターと呼ばれる施設も新たに増設されてきた。

日本政府も、「VCT サービスの強化」を国際協力における重要活動領域の一つとして位置付け、その支援に取り組んできた。その中、JICA は HIV/エイズ対策へ向けた日本政府との取り組みの一つとして、複数のプロジェクトの連携による協力プログラム「ケニア・エイズ予防プログラム」を実施した。これにより、JICA 青年海外協力隊 (JICA/JOCV) 「感染症・エイズ対策」のボランティアの派遣が開始されたが、それは、とりわけ、若年層の VCT 受検者の増加を目的としたものであった。

一方、ボランティアによる活動が進行するなか、これまでまったく目を向けられることのなかった新たな課題として、受検者のプライバシーに対する配慮のなさ、ということが次第に明らかになってきた。このような経緯の下、JICA/JOCV は、VCT を含む HIV 検査施設の実態調査を、筆者が活動する NPO 法人都市計画・建築関連 OV の会 (Ex-Volunteers Association for Architects: EVAA) へ要請した。そして、筆者らは、2006 年から 2008 年にかけて、アフリカ 4 カ国 (ケニア、ガーナ、セネガル、マラウィ) における、HIV 検査施設の現地調査を実施した。

本論文は、現地調査のデータに基づき、HIV 検査施設の若年層の受検者数増加を妨げている要因の一つとして、検査施設の環境設定のあり方に問題の所在をおき、受検者が安心して施設を利用できるよう、建築学の視点から改善方法を探ることを目的とした。

その方法として、「プライバシー重視アプローチ」と命名した手法を採用した。

これは、それまで関係者の間でまったく目を向けられず軽視されてきた受検者のプライバシーに配慮した環境設定のあり方を問うとともに、建築学の視点から施設改善に向けての現状分析と検討、さらに具体的改善方法の提言を行うものである。

本論文の章立ては、第 1 章の序論から、最終章である第 5 章のまとめと今後の課題を含めて、全 5 章から構成される。

まず第 1 章の序論において、以上のような問題の所在と本論文の目的に続いて、2 つに大別した先行研究 (①開発課題としての HIV/エイズ対策、HIV 検査全般を取り巻く現状と課題を取り上げた研究、②医療機関全般でのプライバシーを取り上げた研究) について述べた上で、本論文で提唱する「プライバシー重視アプローチ」について論述し、本論文の位置づけを明確化する。続く第 2 章では、HIV/エイズ問題を取り巻く世界の状況について概観し、国際機関や日本政府によるその対策支援などについて解説する。第 3 章は「アフリカ諸国における HIV 検査施設とプライバシー重視アプローチ」と題し、アフリカ 4 カ国の現地調査で得られた結果を提示しつつ、HIV 検査施設にみられる課題などを具体的に指摘する。それを踏まえて、第 4 章では、プライバシー重視アプローチによる「施設改善」への提言として、受検者のプライバシーに配慮した環境設定に向けて、いかなる検査施設の改善が可能かについて建築学の視点から検討する。そして、その具体的改善策への提言、およびそのモニタリングと検証を行う。第 5 章は、まとめと今後の課題と題し、本論文全体をとりまとめるとともに、本論文で提唱した「プライバシー重視アプローチ」の可能性とその汎用性などについて考察し、今後の課題について述べる。

【参考文献】

エイズ対策研究会

1995 『エイズ対策-理解と実践のすべて』 東京：東京法規出版。

エイズ予防財団

n. d. 「HIV 感染症・エイズについて」、<http://www.jfap.or.jp/aboutHiv/index.html> (2013/3/9)。

エイズ予防情報ネット

n. d. 「検査・相談情報」、<http://api-net.jfap.or.jp/index.html> (2013/3/8)。

エイズ予防のための戦略研究 MSM 首都圏グループ事務局

2010 『データで見るゲイ・バイセクシャルと HIV/エイズ情報ファイル 2010』、東京：エイズ予防のための戦略研究 MSM 首都圏グループ事務局。

HIV 感染症治療研究会

2003 『HIV 感染症・治療の手引き』、東京：HIV 感染症治療研究会事務局、http://www.hiv.jp.org/guidebook/hiv_7.pdf (2013/6/4)。

HIV マップ

n. d. 「あんしん HIV 検査リサーチ」、<http://www.hiv-map.net/anshin/> (2013/3/8)。

大谷順子

2012 「HIV/エイズ、結核とマラリア」、勝間靖編著、『テキスト国際開発論』、東京：ミネルヴァ書房、129-147 頁。

外務省

1980 「プライバシー保護と個人データの国際流通についてのガイドラインに関する OECD 理事会勧告」、<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oecd/privacy.html> (2013/5/21)。

2000 「沖縄感染症対策イニシアティブ」、<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/hoken/Pdfs/idi.pdf> (2013/2/9)。

2001a 「開発途上国の HIV/AIDS 対策への日本の取り組み」、http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryu/hyouka/kunibetu/gai/idi/pdfs/jk03_01_0401.pdf (2013/11/10)。

2001b 「開発に関する国際的取り組み」、<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/doukou/index.html> (2013/7/12)。

2005 「保健と開発」に関するイニシアティブ」、http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/hoken/mdgs/initiative_h.html (2013/6/17)。

2006 『国際社会と人権』、東京：国際社会協力部人権人道課。

厚生労働省

n. d. a 「HIV/エイズ予防対策」、http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/aids/ (2013/3/15)。

n. d. b 「エイズ対策について」、<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000002ypg6att/2r9852000002ypjy.pdf> (2013/10/4)。

- 2014 「HIV 検査相談の充実と利用機会の促進に関する研究」、『HIV 検査相談に関する全国保健所アンケート調査報告書』、http://www.phcd.jp/02/kenkyu/kouseiroudou/pdf/hiv_tmp01_H24.pdf (2014/1/24)。

国際協力機構

- 2002 「開発課題に対する効果的アプローチ HIV/エイズ対策」、東京：国際総合研修所。
2009 『ケニア共和国エイズ予防プログラム評価報告書』、東京：国際協力機構。
2010a 『エイズ対策入門』、東京：青年海外協力隊事務局。
2010b 「JICA 事例紹介」、<http://www.jica.go.jp/activities/issues/health/case.html> (2013/5/18)。
2010c 「感染症対策」、http://www.jica.go.jp/about/report/2001/pdf/ann2001_01.pdf (2013/7/14)。

国際協力機構・都市計画・建築関連 OV の会

- 2008 『HIV 検査施設ファクトシート (ケニア、ガーナ、セネガル、マラウイ)』、東京：青年海外協力隊事務局。
2009 『HIV 検査施設改善マニュアル』、東京：青年海外協力隊事務局。

国連開発計画

- 1994 『人間開発報告書 人間の安全保障』、東京：国際協力出版会。
2000 『人間開発報告書 人権と人間開発』、東京：国際協力出版会。
2003 『人間開発報告書 ミレニアム開発目標達成に向けて』、東京：国際協力出版会。

国連広報センター

- n. d. a 「国連合同エイズ計画」、http://www.unic.or.jp/info/un/unsystem/other_bodies/unaid/ (2013/2/24)。
n. d. b 「HIV/エイズに関するコミットメント宣言」、http://www.unic.or.jp/news_press/features_backgrounders/1286/ (2013/6/20)。

阪本俊生

- 2009 『ポストプライバシー』、東京：青弓社。

佐々木貴弘

- 2009 「日本における性的マイノリティ保護の可能性-国際人権法からの示唆-」、http://www.seiunkai.net/images/library/ronbun/2009/2009_ka1.pdf (2013/11/17)。

全日本病院協会

- n. d. 「医療機能評価」、<http://www.ajha.or.jp/guide/8.html> (2014/2/10)。

総務省

- n. d. 「行政機関等個人情報保護法制研究会審議資料」、<https://web.pref.hyogo.lg.jp/pa14/documents/000025576.pdf> (2013/10/25)。

田中裕也

- 2014 「窓口聞こえるプライバシー」、『朝日新聞』、2014年5月27日付朝刊29面。

WHO

- 1991 *Research/Recherche1991*
http://www.who.int/topics/hiv_aids/en/ (January10, 2013)。

土井修一・小林舞子

2014 「HIV 検査の悩み」、『朝日新聞』、2014 年 1 月 25 日付夕刊 1 面。

東京都

2012 『みんなの人権 -人権問題理解のために-』、東京：総務局人権部
人権施策推進課。

仲本昌樹

2007 『プライバシーの哲学』、東京：ソフトバンク新書。

日本看護協会

n. d. 「患者の権利に関するリスボン宣言」
<http://www.nurse.or.jp/rinri/basis/lisbon/> (2013/2/10)。

服部雅博

2000 『「HIV と暮らす -感染者ワライの幸せの秘密』、東京：集英社新書。

HANDS (Health and Development Service)

2003 「HIV/AIDS 予防ケアの基礎となる VCT 活動のアフリカにおける現状調査と今後の
我国の支援に関する提言」、[http://www.hands.or.jp/pagesj/08_publicity
_pdf/VCT_J.pdf](http://www.hands.or.jp/pagesj/08_publicity_pdf/VCT_J.pdf) (2013/11/15A)。

ふれいす東京

2011 『239 人の HIV 陽性者が体験した検査と告知』、東京：ふれいす東京。

ベイカー・S・リン

1992 『エイズのことをよくわかる本(上)』、(宮本康嗣訳)、東京：HBJ 出版局。

ペパン・ジャック

2013 『エイズの起源』、(山本太郎訳)、東京：みすず書房。

牧野二郎

1999 「プライバシーとはなにか、プライバシー保護と個人情報保護の違いに関する考
察」、<http://www.asahi-net.or.jp/~vr5j-mkn/point/privacy/>
(2013/4/23)。

文部科学省

1992 「人権教育-エイズ問題対策大綱から抜粋」、[http://www.mext.go.jp/a_menu/
shotou/jinken/sankosiryu/1322798.html](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/jinken/sankosiryu/1322798.html) (2013/9/20)。

UNAIDS

2000 “2000 Report on the Global AIDS epidemic”
[http://www.unaids.org/sites/default/files/en/media/unaids/contentassets/
dataimport/pub/report/2000/2000_gr_en.pdf](http://www.unaids.org/sites/default/files/en/media/unaids/contentassets/dataimport/pub/report/2000/2000_gr_en.pdf) (December 23, 2013).

2001 “2001 Report on the Global AIDS epidemic”
http://data.unaids.org/publications/irc-pub06/epiupdate01_en.pdf
(December 22, 2013).

2002a “2002 Report on the Global AIDS epidemic”
[http://data.unaids.org/pub/Report/2002/brglobal_aids_report_en_pdf_red_e
n.pdf](http://data.unaids.org/pub/Report/2002/brglobal_aids_report_en_pdf_red_e
n.pdf) (December 22, 2013).

- 2002b “Voluntary Counseling and Testing (VCT)”
http://www.unaids.org/sites/default/files/media_asset/jc729-vct-gateway-cs_en_1.pdf (December 22, 2013).
- 2003 “2003 Report on the Global AIDS epidemic”
http://data.unaids.org/pub/report/2003/2003_epiupdate_en.pdf
(December 22, 2013).
- 2004 “2004 Report on the Global AIDS epidemic”
http://www.unaids.org/sites/default/files/en/media/unaids/contentassets/documents/unaidspublication/2004/GAR2004_en.pdf (December 25, 2013).
- 2005 “2005 Report on the Global AIDS epidemic”
http://data.unaids.org/Publications/IRC-pub06/epi_update2005_en.pdf
(December 25, 2013).
- 2006 “2006 Report on the Global AIDS epidemic”
http://www.who.int/hiv/mediacentre/2006_GR-ExecutiveSummary_en.pdf
(December 26, 2013).
- 2007 “2007 Report on the Global AIDS epidemic”
http://data.unaids.org/pub/epislides/2007/2007_epiupdate_en.pdf
(December 27, 2013).
- 2008 “2008 Report on the Global AIDS epidemic”
http://www.unaids.org/sites/default/files/en/media/unaids/contentassets/dataimport/pub/globalreport/2008/jc1510_2008globalreport_en.pdf
(December 28, 2013).
- 2009 “2009 Report on the Global AIDS epidemic”
http://www.unaids.org/sites/default/files/media_asset/jc1700_epi_update_2009_en_0.pdf (December 28, 2013).
- 2010 “2010 Report on the Global AIDS epidemic”
http://www.unaids.org/sites/default/files/media_asset/20101123_globalreport_en_1.pdf (December 28, 2013).
- 2011 “2011 Report on the Global AIDS epidemic”
http://www.unaids.org/sites/default/files/en/media/unaids/contentassets/documents/unaidspublication/2011/JC2216_WorldAIDSday_report_2011_en.pdf (December 29, 2013).
- 2012 “2012 Report on the Global AIDS epidemic”
http://www.unaids.org/sites/default/files/media_asset/20121120_UNAIDS_Global_Report_2012_with_annexes_en_1.pdf (December 29, 2013).
- 2013 “2013 Report on the Global AIDS epidemic”
http://www.unaids.org/sites/default/files/en/media/unaids/contentassets/documents/epidemiology/2013/gr2013/UNAIDS_Global_Report_2013_en.pdf
(December 29, 2013).